

エコアクション 21

環境経営レポート

(2023年11月01日～2024年10月31日)

2025年06月03日発行

丸井工業株式会社

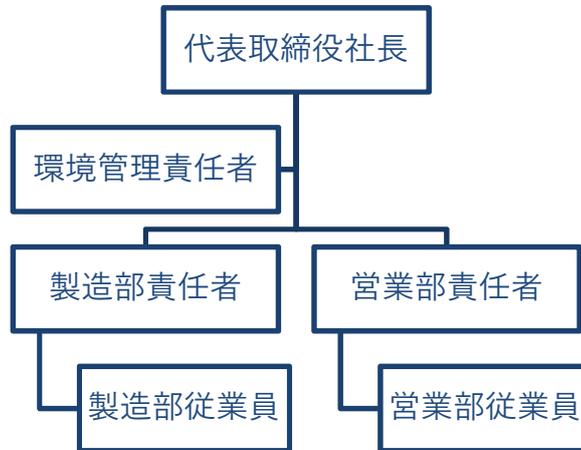
目次

1	組織の概要.....	2
2	環境管理体制.....	3
3	環境経営方針.....	4
4	環境経営目標.....	5
5	環境経営計画の内容	6
6	環境経営計画、環境経営目標の実績、取組結果とその評価.....	7
7	次年度の環境経営目標及び環境経営計画.....	8
8	環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果並びに違反、訴訟等の有無	9
9	代表者による全体評価と見直しの結果.....	10
10	実績	11

1 組織の概要

事業所名	丸井工業株式会社
代表取締役	井手野 智之
所在地	神奈川県横浜市尻手 1-5-15
環境管理責任者	井手野 智之
担当者	山部 拓馬
連絡先	TEL : 045-581-2129 / FAX : 045-581-2216 https://www.marui-k.co.jp/
事業活動の内容	精密板金加工品の製造
事業規模	従業員数 21 人 延床面積 400 m ² 製品材料重量 2023 年度 : 24043.2kg 2024 年度 : 22551.5kg 製品材料枚数 2023 年度 : 1541 枚 2024 年度 : 1557 枚
対象期間	2023 年 11 月~2024 年 10 月
対象範囲	事務所・工場における全ての活動

2 環境管理体制



役職	責任及び権限
代表取締役社長	環境管理責任者の任命 経営における課題とチャンスの明確化 環境経営方針の制定 環境経営システムの実施及び管理に必要な資源の準備 環境経営システムの定期的見直しの実施 社内情報の外部公開可否決定
環境管理責任者	環境経営システムの確立、実施、維持、継続的改善 社長への環境経営システムの実施状況報告 推進機関である EA21EMS の事務局の責任者として事務局運営 それぞれの業務、役割に応じ、必要な教育、訓練を適切に計画、実施 関連法規の取りまとめ表の維持管理、遵守徹底 環境関連文書及び記録の作成、整理
部門責任者	環境経営システムの方針、実施計画を自部門で実施、維持、継続的改善 環境上の緊急事態への準備及び対応
従業員	環境経営方針を理解し、環境経営計画に従って活動する

3 環境経営方針

Marui

環境経営方針

私たちは、
『環境経営システムを効果的に運用』して、
環境経営に取り組みます。

『環境保全に配慮した行動』に努め、
環境経営システムの継続的改善を図ります。

環境関連法規や条例を遵守し、『環境負荷の低減』に努めます。

丸井工業株式会社は、省エネルギーの推進や資源のリサイクルを通じ、
持続可能で豊かな社会の実現に貢献することを目指しています。その取組みの一環として、
環境マネジメントシステムおよび公的認証である Y-SDGs 認証を取得しております。



横浜市SDGs認証制度



丸井工業株式会社

代表取締役 井手野 智之

2024年11月1日

4 環境経営目標

項目	単位	基準（実績）	年度目標	中期目標	
		2022 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度
二酸化炭素排出量削減	原単位	26.84	26.31	26.04	25.77
	Kg-Co2	(40640.12)	(2%削減)	(3%削減)	(4%削減)
電気使用量削減	原単位	49.66	48.67	48.17	47.68
	kWh	(75192)	(2%削減)	(3%削減)	(4%削減)
ガソリン使用量削減	原単位	2.00	1.96	1.94	1.92
	ℓ	(3029.87)	(2%削減)	(3%削減)	(4%削減)
一般廃棄物排出量削減	kg	528.57 (2023 年度)	523.28 (1%削減)	523.28 (2%削減)	91.82 (3%削減)
産業廃棄物排出量削減	原単位	0.66	0.64	0.64	0.63
	kg	(18020)	(2%削減)	(3%削減)	(4%削減)
水使用量維持	ℓ	122	122 (維持)	122 (維持)	122 (維持)
化学物質使用量管理	kg	0.8	(管理)	(管理)	(管理)
材料 産業廃棄物 リサイクル率維持	%	100%	100% (維持)	100% (維持)	100% (維持)

※ Co2 排出係数は 0.447kg-CO2/kWh を使用。

※ 右記項目は材料枚数を原単位分母として使用。（二酸化炭素排出量、電気使用量、ガソリン使用量）

※ 産業廃棄物排出量は材料重量を原単位分母として使用。

5 環境経営計画の内容

1) 二酸化炭素排出量の削減

① 電気使用量の削減

ISO9001/JISQ9100 を基にした品質マネジメントシステム（QMS）を運用し、生産工程の手戻り作業の減少を計ることで、材料枚数当たりの機械の稼働時間を削減する。

室温の監視、及びエアコン使用時の室温を規定し、必要以上の使用を削減する。

夏用制服の素材を変更し、体感温度の低減を試みる。エアコン使用の抑制を期待する。

工場の外壁塗装を塗り替える。熱反射率を向上させ、室温上昇の低減を期待する。

② ガソリン使用量削減

ドライバーに対してエコドライブを奨励することで、材料枚数当たりのガソリン使用量を削減する。リーフレットを通じて不必要な加減速が発生するメカニズムを理解し、エコドライブを促進する。

営業車に関して、ガソリン車からハイブリット車への移行を検討する。

2) 廃棄物排出量の削減

① 一般廃棄物排出量の削減

適正な分別を実施する。

排出数（袋）削減のため、圧縮機の検討。

② 産業廃棄物排出量の削減

ISO9001/JISQ9100 を基にした品質マネジメントシステムを運用し、生産工程の歩留まり率向上を計ることで、材料枚数当たりの産業廃棄物排出量を削減する。

3) 水使用量の維持

水の用途が生活用水に限られており、使用量が極めて少ないと判断し、維持目標とする。

4) 化学物質の適正管理

使用量が極めて少ないため、数値目標は設定しない。使用量の把握及び適正管理を実施する。

5) 材料端材のリサイクル率の維持

製品の材料として使用した金属材料の端材のリサイクル率を維持目標とする。

6 環境経営計画、環境経営目標の実績、取組結果とその評価

環境活動計画	取組結果とその評価 (2022年11月～2023年10月)			
	目標	実績	達成 区分	環境経営計画の取組み評価
1.二酸化炭素排出量削減	26.31 (2%削減)	26.28 (40923.43)	○	-
①電気使用量削減 ・QMSの実施	48.67 (2%削減)	46.82 (72907.00)	○	エアコンの使用規定を実施した結果と考えられる。
②ガソリン使用量削減 ・エコドライブの奨励	1.96 (2%削減)	2.11 (3277.99)	×	今回はハイブリッド車の導入検討だったため、実績には反映されなかったが、年度末に導入したため、改善が見込まれる。
2.廃棄物排出量削減	-	-	-	-
①一般廃棄物排出量記録	523.28 (1%削減)	677.63	×	分別を明確にした結果、一部の廃棄物の処理方法を産廃から一廃に変更したためと考えられる。 圧縮機は採算がとれないため断念した。 他の対策を検討する。
②産業廃棄物排出量削減 ・QMSの実施	0.64 (2%削減)	0.59 (13332.1)	○	分別を明確にした結果、一部の廃棄物の処理方法を産廃から一廃に変更したためと考えられる。
4.水使用量維持	122 (維持)	93	○	例年通りの適正な使用が行われていた。
3.化学物質の適正管理	(管理)	0.5	○	使用量及び廃棄方法は適正に管理されていた。
5.材料端材 リサイクル率維持	100% (維持)	100%	○	廃棄方法は適正に管理されていた。

7 次年度の環境経営目標及び環境経営計画

環境活動計画	環境経営目標及び環境経営計画（2023年11月～2024年10月）				
	基準値	目標	担当者	取組内容	期間
1.二酸化炭素排出量削減	26.84 (40640.12)	26.04 (3%削減)	山部		
①電気使用量削減	49.66 (75192)	48.17 (3%削減)	山部	QMSによる工程の改善 エアコン使用の適正管理 気温ロガーの校正	24/11~25/10
②ガソリン使用量削減	2.00 (3029.87)	1.98 (1%削減)	井手野	エコドライブの奨励 ハイブリット車の運用	24/11~25/10
2.廃棄物排出量削減					
①一般廃棄物排出量削減	677.63	670.85 (1%削減)	山部	分別の明確化	24/11~25/10
②産業廃棄物排出量削減	0.66 (18020)	0.64 (3%削減)	山部	QMSによる工程の改善 分別の明確化	24/11~25/10
3.水使用量維持	122	122 (維持)	山部	使用量の監視	24/11~25/10
4.化学物質の適正管理	0.8	(管理)	山部	使用量及び廃棄方法の監視	24/11~25/10
5.産業廃棄物 リサイクル率向上	100%	100% (維持)	山部	廃棄方法及び分別の監視	24/11~25/10

8 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果並びに違反、訴訟等の有無

適用環境関連法規等	適用事項（施設、物質、事業活動等）	確認日
廃棄物処理法	一般廃棄物の適正処理 産業廃棄物のマニフェスト交付	2024/12/10
家電リサイクル法	特定家庭用機器の適正処理	2024/12/10
小型家電リサイクル法	使用済み小型電子機器の適正処理	2024/12/10
騒音規制法	特定施設の規制遵守 特定施設設置・変更前に市へ届出	2024/12/10
振動規制法	同上	2024/12/10
PRTR 法	化学物質使用量の適正管理	2024/12/10
フロン排出抑制法	業務用空調機の簡易点検実施、点検記録保存	2024/12/10
高圧ガス保安法	高圧ガス貯蔵量の適正管理	2024/12/10
消防法	防災訓練の実施 消化、避難に必要な資源等の適正管理 危険物貯蔵量の適正管理	2024/12/10

環境関連法規等の遵守状況を確認し評価した結果、環境関連法規等への違反・訴訟はありませんでした。
なお、関係当局よりの違反等の指摘は過去3年間ありません。

9 代表者による全体評価と見直しの結果

【 二酸化炭素の削減 】

ISO14001 認証返上後も環境に配慮し二酸化炭素削減活動を実施しています。

省電力設備への移行や照明のLED化、空調効率UPの為に外壁や屋根の高断熱塗装や室温の管理規定、などを導入し、売上を伸ばしつつも着実に消費電力を減らして来ました。

その結果、10年前と比較し1/2以下まで電力消費量を削減することができました。

ガソリンについても、リーフレットを通じてエコドライブを推奨し使用量削減を進めてきましたが、更なるガソリン使用量削減を実現するために、ハイブリット車を導入致しました。

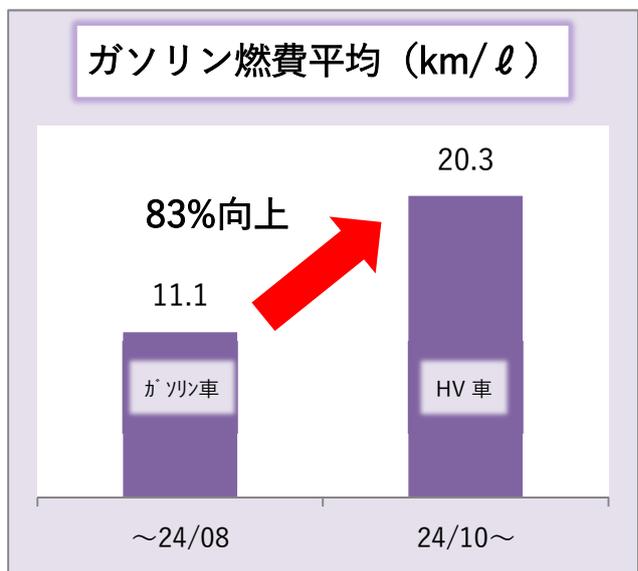
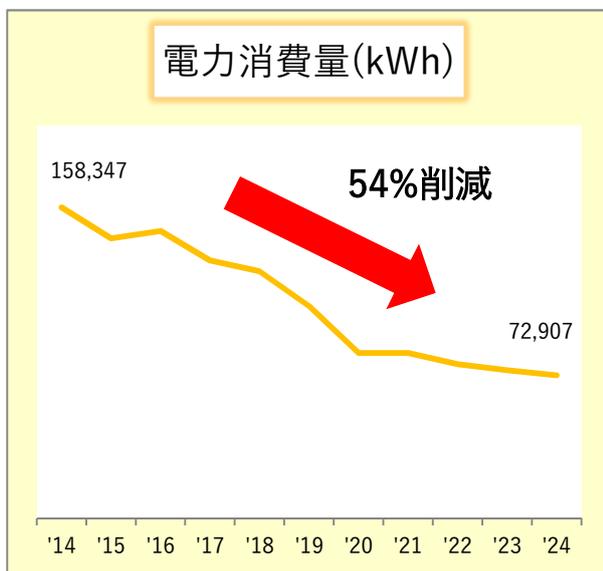
これらの活動から、今後の継続的な二酸化炭素削減に繋げていきたいと考えています。

【 資源 】

当社は多品種少量生産の受注型産業であることから廃棄物の排出量に対して一律の削減目標を設定することが難しいです。そこで、一般廃棄物と産業廃棄物の中で「ごみ」として処分されていた物をさらに厳密に分類することで資源の有効活用に繋げる活動と考えています。

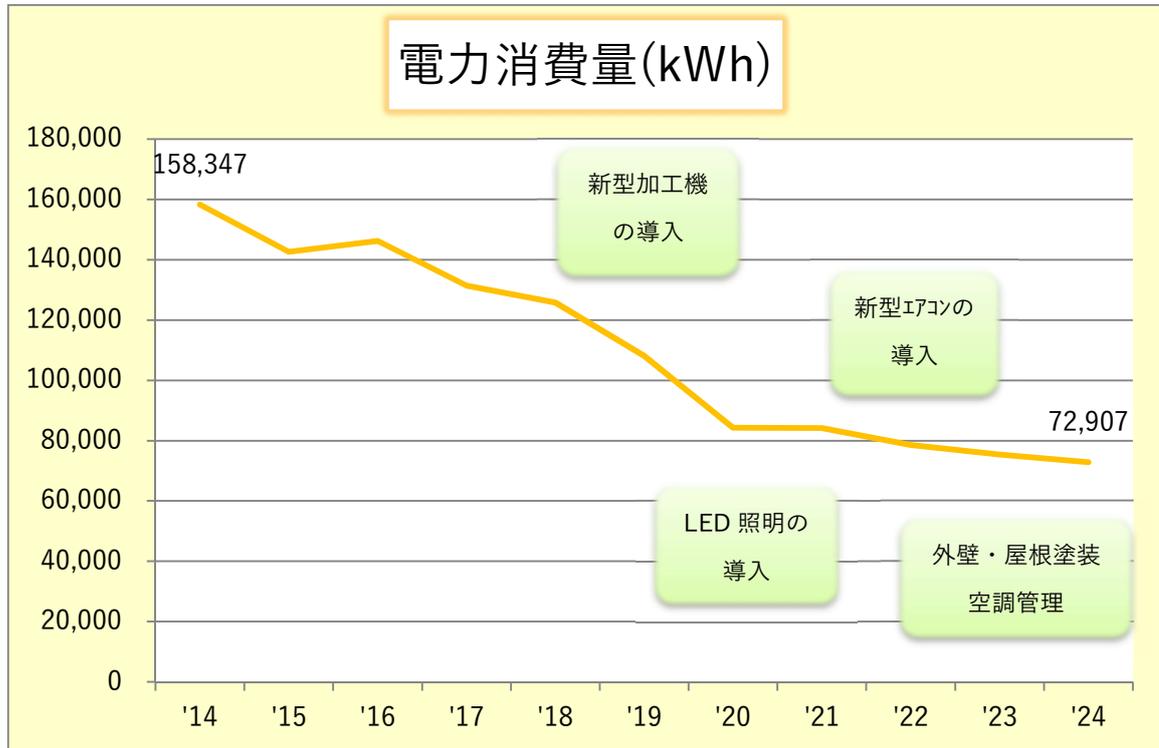
対象として：金属スクラップや紙くずなど

なお、環境経営方針及び実施体制については、適正と判断し、現状を維持します。



10 実績

1) 電気使用量



① 省エネルギー型加工機の導入

- ・ CNC タレットパンチプレス

従来機に比べ加工時間を短縮したことにより、37%の省エネを実現しました。
(メーカーWeb サイト参照)

- ・ プレスブレーキベンディングマシン

従来機に比べ、急下降/急上昇の速度アップが可能となり、電力消費量 8.5%の削減を実現しました。(メーカーWeb サイト参照)

- ・ コンプレッサー

② LED照明の導入

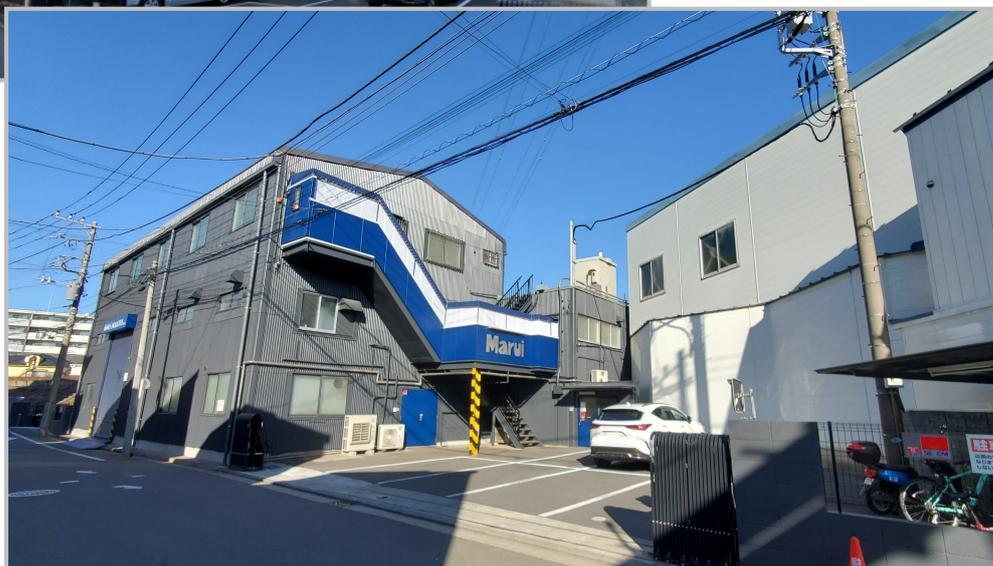
工場の全照明を LED に換装、事務所も随時入れ替えを行っています。

③ 新型エアコンの導入

老朽化が進みエネルギー効率が悪くなったエアコンを買い替えました。省エネルギー性に優れた新型のエアコンを導入し、電力使用量削減に貢献しています。

④ 外壁・屋根塗装の塗りかえ

外壁・屋根塗装の塗り替えを行いました。屋根塗装は反射率 50%のため、エアコンによる電気使用量の削減が見込まれます。



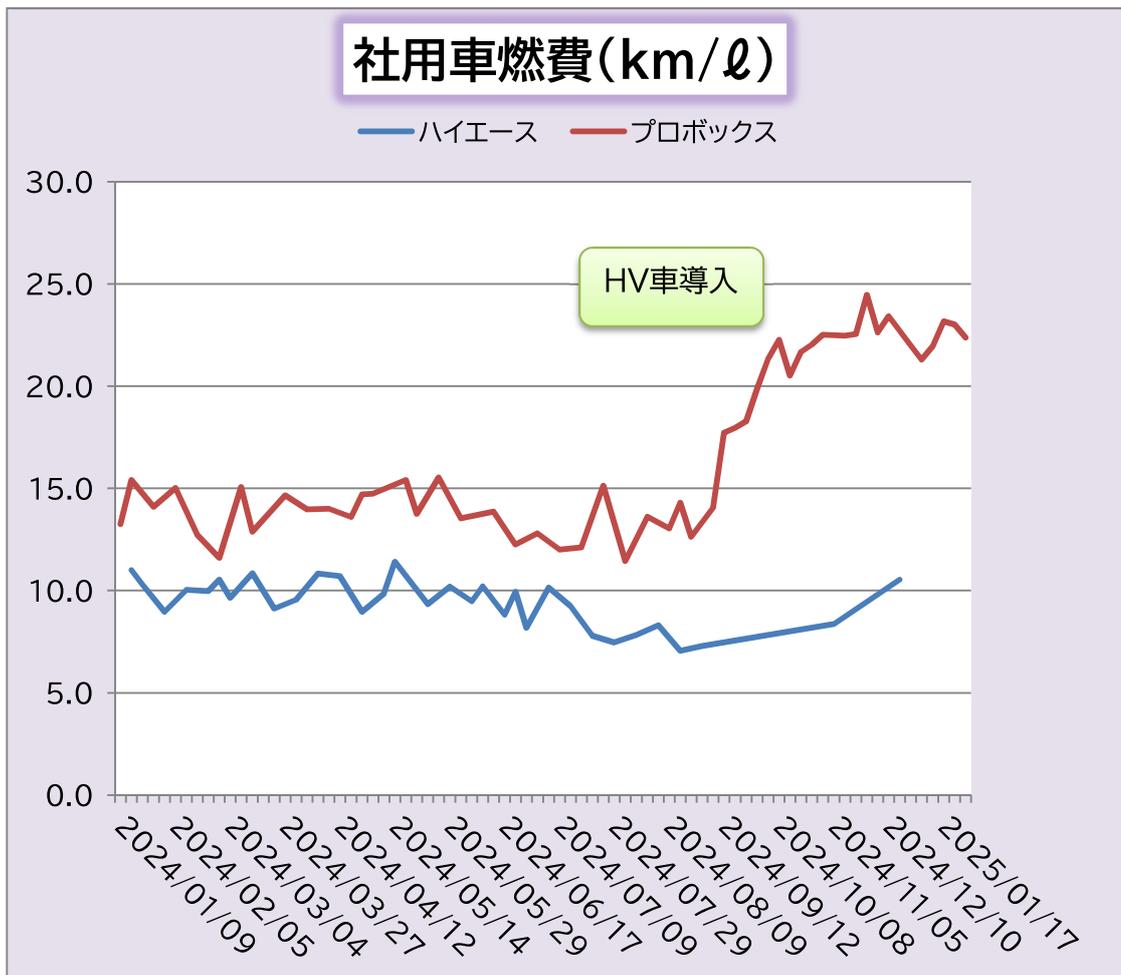
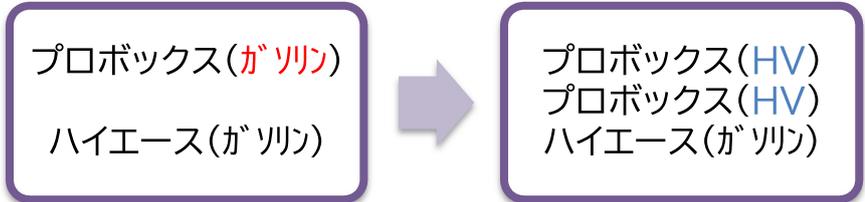
⑤ エアコン使用時の室温規定の施行

エアコンの使いすぎを抑制するため、目標とする室温を定めました。各管理者が適宜調整するため、無駄な使用を減らせます。

2) ガソリン使用量

① ハイブリッド車導入

主に使用する営業車をガソリン車2台からハイブリッド車2台に替えたため、燃費が向上しました。今後、単位当たりのガソリン使用量の削減が見込まれます。



3) 水使用量



① 自動水栓

洗面所の蛇口を自動水栓に換装しました。これにより必要量の使用をより厳密に行うことができます。

以上